

■ 発言要旨

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
1	今の説明が教育委員会の考えならば指摘すべき点が多々あります。 適正配置計画は統廃合ありきで始まっているのではないですか。平成27年に文部科学省が公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する文書を出しており、第4章『小規模校を存続させる場合の教育の充実』の中に『学校統合を選択しない場合』が4項目あります。その中で『学校を当該地域コミュニティの存続や発展の中核的な施設と位置付け、地域を挙げてその充実を図ることを希望する場合』とあります。そのことを以前の説明会の場において説明しましたか。 いま、影野を再生しようと、そのためには学校がいるということで、地域住民を増やす、その時に学校が統合して遠くになったら移住者も来ませんよね。 『学校統合を選択しない場合』に該当するか否かを聞きたいです。町長と統合について話したとき、町長は統合はしたくないと、特に影野のような学校は残したいと言ってます。 そういった中で、なぜ強引に統廃合を進めるんですか。計画は決定だと思っていましたが、状況が違う。先の県議会で県の教育長への質問もありましたので確認いただければと思います。 隠岐の島に教育長は視察に行かれたかと思いますが、高校が奇跡的に存続のところが今100何名になっていますよね。そこのレポートは、学校が7～8校あります。小規模校もあります。しかし未来に向けて統合させない学校づくりをすると隠岐の島町は決めているんですね。四万十町にも当てはまる点があります。そこらあたりを考えていただきたいです。 平成20年の第1期四万十町立小中学校適正配置計画の時も言いましたし、昨年の素案も見ました。第1期に比べ簡潔な内容になっていますね。小規模校・大規模校のメリット・デメリットがインターネットに出ていますよね。表しかないんですよ。論文であるとかしっかりしたものがないんですよ。 一定規模の学校でないと良い教育ができない。それは、まやかしてであると思います。お金の論理であると考えます。田舎の切り捨てですよ。小規模校であっても問題もありますが、教育環境は素晴らしいです。北海道教育大学の釧路高校の先生方が小規模校ほど、学習指導要領の目的や日本の教育の課題に対して解決する素地がある、文部科学省が言っているデメリットはメリットになるんだという論文を出しています。小規模校ほど日本の教育の先端を走ることができるかと書かれています。 100歩譲って、窪川中へ進学して、影野小から進学する子と窪川小から進学する子とでは、コミュニケーション能力あるいは劣っている点があるか、それを確認していただきたいと思います。 小規模校の教育が四万十町ではどうなのかということを、きちっと証明しないと納得がいかないと思います。 仮にいけない点があるならば、そこを小学校として改善するので言ってもらいたい。 研修が多くて教員が大変であるという点については、確かに教員は大変です。休み時間に職員室に帰ってきませんからね。県教委や地教委が研修を開催していますよね。減らしていただければと思います。全ての学校から研修に行くのは大変なので、小規模校は研修に行かなくてもいい等の提案をいただければ行く回数は減りますよね。学校の問題ではなく、教育委員会の問題であると思います。 複式学級が良くないという話がありましたが、海外では全てではないですが1学級30人の単式学級を複式学級に分割しているところもあります。複式学級というのは効果がある。上級生が下級生に教えたり、いろいろありますよね。四万十町でいえば窪川小の規模で複式学級を作っているというイメージです。成果については不明ですが、その学校の教員はそう仰ってました。 新学習指導要領において英語教育・プログラミング教育が入ってきますが、100人200人の学校では、いくら英語を教えても話せるようにはなりません。小規模校の児童も英語を十分に話すことはできませんが、会話をする回数がとても多いです。小規模校の児童は、教員の工夫次第で英語が話せるようになるのではないかなと思うくらい良いです。 大規模校と違い、小規模校では先生と話す回数がとても多いです。メリットではないですか。教育者は明文化しなくとも分かりますが、保護者や地域の方は分からないと思います。 松葉川では、青年団が出来たり、いろいろと地域おこしをしています。既にやっておられますけど、人口を増やすためにどうすればいいかということを行政は考えるべきではないですか。人口が減るから学校減らすっていう理屈にはならないと思います。学校をおいて人口を増やしていく方法を考えるという道はなかったですか。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
	包括して回答します。窪川の小学校・中学校ほとんど小規模校です。新聞で、小規模校を否定はしていないとコメントしていますが、誤解のないようにしておいてほしいですが、学校自体、小規模校がいけないとか複式学級がいけないとかいうことは一言も言っておりません。一生懸命先生方が創意工夫しながら尽力していただいております。 先生方の配置というのは、自分が希望するという形ではありません。県の教育委員会、もちろん地元の教育委員会も関係してきますが、先生方はそれぞれの学校に配置をされます。その配属された学校の中で、一生懸命創意工夫しながら、複式であれば複式、単式であれば単式で、子どもたちを成長させていっていただいているというところは、はっきり言っておきます。 学校規模によるメリット・デメリットを言い出したら果てがありません。それぞれ良さがあります。小さい学校には小さい学校の良さがあり、大きい学校には大きい学校の良さがあります。また、デメリットもそれぞれあります。 中学校のことは一旦置いて、小学校のことで、本計画の策定にあたっては、町長を本部長とする適正配置推進本部会において決定されました。平成20年9月に第1期の適正配置計画が策定され、今日に来ております。当時からいうと人口減少、そして児童生徒数も減少してきている中で、計画通りに来ているかといえそうですではありません。現代社会における目まぐるしい変化があります。教員が果たして、子どもたちにしっかりと目を向けることができる先生方が配置されているかという、1ページをご覧くださいと思います。 小学校において完全複式学級である場合は、1・2年生で1学級、3・4年生で1学級、5・6年生で1学級の合計3学級ですので、教員数は4名です。4名の中には校長先生も含まれております。教員3名ないし、教頭1名、教諭2名で授業をしていかなければなりません。仮に先生が病気になった場合、1月以上休まなければならない場合は、代替講師の配置がありますが、2日3日、1・2週間の病気休暇のときは、講師の配置がありません。それをどうしていくか。校長先生をはじめ、管理職の方々に苦勞をかけております。 メリット・デメリットを挙げていけば果てがありませんが、私たちが今回1番思うのは、子どもたちのことを最優先に考えた場合、子どもたちに向かう先生方がしっかりと配置をされる、これが重要なことであると考えます。一定規模の児童生徒の数が重要になるのではないかと考えます。法律に基づく配置基準につきましては、四万十町教育委員会において変更することはできません。 子どもの数が増えれば、増に伴って学級数も増えてきますし、教員数も増えてくると思います。 子どもたちがさらに力を発揮できるように教育環境を整えることが最優先ではないだろうかということで、今回計画を策定しました。 策定にあたっては、推進本部会のみならず、PTAや学校長、地域、学識経験者、公募委員により審議会が構成されておるわけですが、町長から審議会へ素案について諮問して、審議会を開催してきました。審議会を開催している中においては、各学校への訪問を行い、子どもたちのこと、先生のこと、あるいは環境の面それぞれ見ていただいたところです。 年が明けてから、審議会より諮問をいただいたところです。 その後、パブリックコメント等を経て、手順を踏んで、最終的には推進本部会で計画を策定したところです。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
2	質問と回答がかみ合っておりません。教職員の配置基準については、ここ数年で変わったわけではないですね。 100歩譲って、教職員の配置について小規模校がいけないということは全くないですね。大人の事情ですね。小規模校における問題があるのであれば、教育委員会と学校が一緒になって県に話してみたり、教育を変えてみるとか方法があると思うんです。ただ、小規模校は適切な教育環境にないんだということを強調されると如何なものかと思います。 それと、先生が休んだらという問題ですが、小規模校であってもなくても先生が休んだら大変です。特に規模が大きな学校は、休職される先生の数も多く、休職における課題については学校規模の違いはないと思います。 学校訪問されたそうですが、その時、小規模校の何が悪かったんですか。何で統合しなければならぬのか、そこが聞きたいんです。学年によって1人、ないし3人とかを見て可哀そうだな、もっと人数が多くなると勉強ができないかなという程度のことではないと思うんです。 例えば小規模校ではコミュニケーションが付かない、児童の繋がりが無い、でも子供のコミュニケーション能力、発言力というのは、子ども同士、子どもと先生、子どもと保護者・地域、いろんな場面があるんですね。子どもと子どもは確かに小規模校は少ないですよ。しかし話す回数はとても多いんですね。規模の大きな学校では、話をしなくても1日が終わる児童何人もいますよね。それでコミュニケーションが育ちますか。子どもというのは小学生くらいであれば関わり合いを持たず授業というのは、教員の力がかなりないとできません。30人学級であれば15人話していれば上等です。後は半分以上が静かに聞いてますよ。 しかし、小規模校では話さないと授業が成り立っていきませんので、自分の頭で考えて話す回数はとても多いです。大勢の前では恥ずかしくて話せなくても、話す能力というのはとても高いと考えます。 説明を聞いた限りでは、人数が少ないからいけないんだ、だから統合しようという説明に聞こえます。 小規模校でも1学級10名くらいいけばいいですけど、要はお金ですね。日本は途上国において一番教育予算の割合が低いと新聞にこの前載ってましたけど。大人の事情であるならば、そうであるときちゃんと説明していただきたい。 子どもは、正に未来をつくる子どもたちって言いますが、子どもを上手に使って説明して、統廃合を進めているような気がします。 予算のことで言いますと、学校の数が少なくなる、先生の数が少なくなると、国から県から入ってくるお金も少なくなって予算規模は小さくなりますよね。支出も少なくなりますが、収入も減りますよね。大丈夫かなと思います。 先生1人には、国から600万つつ県に補助があります。四万十町としては先生の数が多いほどお金がもらえるんですよ。そこのあたりも審議会で話があったかと思います。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
	前回の計画については平成20年です。その時は、影野小と仁井田小を統合して仁井田小という計画でした。影野地域で猛反発があったということで計画通りにいかなかったと聞いています。平成22年当時の児童数を見たら、仁井田小・影野小ともに50人を超しております。その時は、この2校を統合していいのかという議論になったわけです。それで反対が起こったと思っています。現在を見てみれば、令和3年度の児童数をもって統合ということを計画しておりますので、影野小22人、仁井田小28人、平成22年当時からいうと半分以上になっております。仁井田と影野だけでなく、それぞれの学校でも減少傾向にあります。これが大きな原因なんです。50人くらい児童がいれば、学校の先生も完全複式ではないので、そこそこの人数の先生が配置されるわけですので、学校も元気があるんですよ。推計値では将来においても完全複式になってしまうので、校長先生含めて4名しか教員が配置されません。町の教育委員会が法律の配置基準を変更することはできません。ですので、この人数で頑張ってくださいしかないんです。 学校数が少なくなった場合に、予算がどうなるのかということも仰っていたと思いますが、確かに学校がなくなると地方交付税が1校あたりいくらというのが決まっています、当然なくなります。仮に2校を1校に統合すれば、その統合先の1校の経費しかいなくなるんですが、町は経費の削減や合理化のためにこの計画を策定しているわけではありません。反対にスクールバスの運行をしなければいけなくなりますので、経費は余分にいるのかもしれないです。 学校の先生は、県費負担教職員ですので、高知県には地方交付税として先生1人あたり何百万という金額が入っているわけですが、町は給与を払ってないわけですので、町には一切入ってきません。町には学校を経営・維持していくための経費について入ってきています。 減り過ぎている子どもたちのために、しっかりと先生方を張り付けていただいて、授業を行ってほしいという気持ちでいっぱいです。ですから、決して小規模校が悪いと言っているわけではありません。小規模校が良いと思っています。しかし、我々が思う小規模にも届かない、本当に小さな規模の学校ばかりになっているので、今回の計画を策定したところです。 町長が学校を残したいんだということを仰っていたのですが、町長は正にその通りです。各地域に学校は残したいんですけど、こういう状況なので仕方がないという想いです。
3	その状況が分からないんです。米奥小はずっと複式学級でしたよね。不都合はありましたか。3学級であれば4人教員が来ますよね。小規模校は良いって言いましたよね。その良い学校をなぜ統合するのかということを知りたいんです。 適正な先生の数が減るのであれば分かるのですが。 想いというところは非常によく分かります。今から先の時代、AIも進展していきますが、新学習指導要領が始まります。主体的・対話的・深い学び、これも小さな学校でもできなくないと思います。
4	小さい学校の方ができます。 ただ、大きい学校でもできます。我々も小さい学校を否定しているわけではありません。先生方が子どもをしっかり見ていくうえで、審議会が学校訪問で学校を見ていくうえで、子どもたちがしっかりと先生方の下で、複式学級というのは半分の時間は先生が片方の学年の子どもたちに関わらなければなりませんよね。それは事実ですよ。そこは、本当に先生方、子どもたちの工夫で上手に教えていただいていると思います。先生方の裁量といいますか授業力になってくると思います。ただ、そういった形の中で今から先の教育が1人とか2人とか少ない人数で一生懸命やってもらっていると思いますが、45分であれば45分という時間、子どもたちに個々に向き合う時間が必要でないかなと思います。
5	確かに複式学級のデメリットもありますよ。30人の単式学級を複式学級にしている学校も世界にはあります。質問と回答が全然かみ合ってません。 -

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
6	四万十町の適正規模は1つの小学校では60人とのことですが、この60人のラインのギリギリのとき、例えば少し下回った場合はどうなりますか。 県教委はとてもシビアですので、児童数が減ったらパシッとします。小学校で複式学級になる基準がありまして、連続する学年の児童数が16人以下ですと複式学級となります。17人であれば複式学級ではないです。小学校1年生を含む場合は、8人以下のとき複式学級となります。例えばギリギリの17人だったとします。来年度の児童数の推計は読めますので、その時に17人を割り込んでくるときには、正職員の配置のところを講師配置となったりしているところですよ。 この計画通りに行くならば、適正規模を満たさないと統合ですが、最終的に判断するのは当然、町長です。 1学級10人としているのは、複式学級にならない児童数、例えば17人であれば、8人と9人というケースがあるかと思います。そこから転校することも考慮して、10人は必要であろうという考え方も入っています。
7	将来において10人を割り込む学年が出てきそうですが、どうでしょうか。 議会答弁においても、1年から6年まで全学年で10人いなければならないのか。例えば3年生が9人であった場合は、統合になるかという質問がありました。その時は、あくまで原則10人であると、最終的には町長が判断しますが、その後の推計においても概ね10人をクリアできるならば、統合せずにいくということもあろうかと思っています。
8	町外の学校ですが、全校児童が2名という学校がありました。それでも地域が残すんだということであれば県教委は認めています。地域によっては、2名しか児童がいないということで地域が折れて統合した例もあります。 複式学級でなく、1学年1学級以上ということにこだわっていますよね。小規模校は良いといいながら、複式学級を頭から否定されるのが分かりません。教職員の配置は県が決めているから、それはいいんですよ。来年、影野小に養護教諭の配置がなければ、町の予算で配置いただきたいです。それと、複式学級を解消するために町の予算で先生を配置いただければと思います。あと5年間、影野小は複式学級をしなければならないので、複式学級が困るのであれば、無理なお願いかもしれませんが、町のサポートをしていただきたい。 実際、教員の配置が町の言い分でいったら解消しようではないですけど、そういう形もあろうかと思っています。町の予算やサポートでカバーできればいいわけですが、町も精一杯、事務職については配置もしております。事務支援室の設置もしましたし、事務職員も学校にはなくてはならない存在ということで、欠かしてはいけないだろうということで、町の予算で配置もしております。影野小では今年度、県の臨時職員の養護教諭の配置があります。町も精一杯配置に向けては要望もしている中で、本当は町の予算で人を雇用できればいいわけですが、なかなか内情、厳しさというところも実際あります。できる限り、学校あるいは保護者、地域、町も将来のために精一杯できるところはやっております。
9	学校規模によらず、先生方は研修に行かなければならないと先ほど仰いましたよね。その通りなんです。そうすると、来年以降も、事務職員と養護教諭については、とても大事なポジションです。必ず配置をしていただきたい。完全複式校の校長含めて4人しかいない学校の苦労は分かっていたかと思っています。支援員さんも配置いただきたい。 内情のことですので口外できないこともあります。県教委とは精一杯やり取りをしております。支援員、養護教諭について配置できていない学校もありますが、県への要望もしているというところで捉えていただければと思います。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
10	この計画は決定事項ですか。反対意見があれば変更できますか。 通常の通学は、スクールバスで通学するようになると思いますのでそれは構いませんが、行事、例えば運動会とかあれば、窪川小へ行かなければならない。現在でも駐車場は手狭だと聞いていますが、統合すれば、クルマで来る台数ももっと増えるので、対応はどのように考えていますでしょうか。
	この計画通りに行くのかとのご質問ですが、町長が本部長、教育長を副本部長とする推進本部会として本計画を定めた、つまり四万十町としてこの計画を定めましたので、町としてはこの計画に沿って進めていくということです。平成20年に策定された計画についても、今回と同様です。計画を立ててお示したところ、説明会会場がいっぱいになるほどの反対があり、結局統合になっていませんよね。ですので、計画の通りやり切るということは、この場では明言できません。
11	平成20年に反対したときの話ですが、あれほど反対して統合が止まったのであれば、今回も反対すれば統合が止まるのでないかという考えもあります。当時は教育委員会に対する信用がなかったんです。平成20年当時と私たちは言っていることは一緒です。説明は全く変わっておりません。もっと町が動いて現場に足を運んで見るということとはできないのかなと思います。現場を見てもっと判断しないとイケないと思います。私たちの声を聴いてほしいです。
	計画のことですので、最初の計画のときは、そういう経過をたどっています。そういう話も聞いています。今回も内容は同じ説明かもしれませんが、絶対に違うのは、児童数がぐっすり減っているんです。これは、どうしようもないくらい減っていますので、計画の見直しをしようというのが今回の計画のスタートです。
12	減ったからですけど、始めはいい言葉で、四万十町の子どもたちのために、将来のためにと仰っていたのが、だんだん無くなってきてますよね。賛成・反対はいろいろあると思うんですよ。反対が強かったら、子どもたちのためにならないこともあると思います。本当に四万十町の子どもたちの将来のための適正化の提案であるかというのが疑問なんです。そこが納得できないんですよ。
	学校というのは、保護者と学校だけでなく、地域とみんなで作っていくものですので、すごい力ができるんですね。そういうのを始めから否定されて、最終的には複式学級はダメなんだと、小さい学校は良いといいながら、数ですよ。影野の子どもたちが、窪川小へ行ったとします。バスで行きます。放課後、補習もできませんよね。運動会の練習で、応援の練習もしたい、あるいは遊びたい。そういったこともできませんよね。バスの中でいろいろなトラブルも起きますよね。それが、四万十町の子どもたちのためにいいのか。
	四万十町の全ての子どもたちのために良い教育をしたいという説明がありました。そのために何が必要なのかということが抜けているんじゃないのかと思うんです。それをそのまま推し進めているのは如何なものかと思うんです。 先生の数が少ない、学校が少ない、結局は最後、そこに落ち着きましたよね。それで、四万十町の子どもたちのためにと言えるのでしょうか。原点に戻っていただきたいです。 先ほど、駐車場のことでご質問がありましたが、窪川小は、体育館やプールも傷んできております。そういったところも含めて総合的に教育環境を整える意味でも、改修等全般的なところで現在、考えていっているところです。

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
13	分かりやすく純粋に窪川小と影野小を比較して、例えば窪川小の方が教育の質が高いとか保護者の中で思えたら、窪川小へ行かしても、子どものためになるんだということで時間がかかったとしても、単純に良いと思うんですけど、複式学級で、かつ教員の数が少ないから、子どものわずかな変化に気が付きにくいような説明だったと思いますが、一定の教育の質を担保するには、複式学級は担保できていないというような説明に聞こえました。 窪川小の児童はテストの点が良いとか、中学校へ進学した際に、コミュニケーション能力が高いとか、折り合いをつける能力が明らかに高いとかいうのがあれば、小さな学校よりは、まとまった学校の方がいいのかなと思えるんですが、そこはどうでしょうか。
14	窪川小のデメリットを教えてください。 デメリットについては、例えば運動会を一つ例に挙げますと、全員が出る種目もありますが、選抜して出る種目もあります。代表してということです。他には、学校規模が大きい学校は大きいなりに良さもありデメリットもあります。
15	影野小の良いところは、学校みんなで取り組めるところ、保護者との距離も近いし、窪川小は学年あるいはクラスだけで取り組むことで先生が孤立したりすることも無きにしもあらずのようです。 窪川小の指定事業ですが、指定を受けたら学校が良くなるなんて夢物語ですよ。 ただ、何もしないということはないですね。
16	やり過ぎるから困っている学校もあるんです。指定を受けると提出しなければならない書類がいっぱいあります。理想は分かれますが、現場のこともわかってもらいたいです。それを魅力的と記載していますが、現場の先生の話をつっくりと聞いてあげてください。 —
17	ひかり保育所から影野小・仁井田小に分かれるので、交流をするのが大変です。現在は、窪川小への進学者は、見付・くぼかわ保育所からが多いと思いますが、計画通り統合すると他の保育園からも窪川小へ進学するようになると窪川小は大変になるのではないかと思います。 保護者の立場としては、学校の大小は関係ありません。一番大事なのは学校の質です。学校の職員集団だと思います。そういうことも合わせて学校統合をするもしないも大事にしていってほしいと思います。町外の窪川中より学校規模の大きな学校でも、子どもの合う合わないもあるうかと思いますが、一番大事なのは、今の影野小の学校集団はどうなのかとか、年によって違うということも並行して進めていってほしいと思います。 学校規模が大きくても小さくても、一人ひとりを大切にすることが大事な事ではないかと思いました。 —
18	大反対運動が影野で起こった場合、統合はしないんですか。 適正配置計画に基づいて、令和3年の児童数をもって統合の判断をするということになっております。保護者の皆さんとこういった場を設けながら、適正配置計画に基づいて話をしていくわけですが、どうなるかということにつきましては、声が出たときに、推進本部会や町長の判断になると思います。
19	統合がなくなる可能性があるということですね。 そこは推進本部会での話になってくるかと思います。例えば、我々もここで可能性はある・ないということは、教育委員会のみで計画を立てているわけではありませんので、声が出れば、推進本部会にお伝えしていくようになります。
20	なぜ、前回は計画が頓挫したのですか。 —

No.	上段(質問等) / 下段(回答)
21	計画は計画ですよね。 先を見通した計画ということです。
22	子どもたちのことを中心に考えてください。これは計画であって、子どもたちの将来を見据えた判断ができる部分をもう少し提供していただいて、考えていくと。人数だけではないということは確認していただきたい。 計画の変更については、例えば、子どもたちの数が推計以上に減ってきて、想定以上の変化があることは否定できませんので、また、人数が増えるとか。 我々も反対意見があったら、計画を変更しましょうとかいうことで計画を策定してきた訳ではありません。
23	計画の変更はないということですね。 3ページの一冊下ですが、「本計画策定後も、今後の社会情勢等の変化に応じて内容を見直す必要が生じた場合は、町の方向性や町の他の施策等との整合性を図り、適宜修正を行います。」とあります。令和3年度の児童数をもって判断をするわけですので、例えば影野地区で子どもの数がとても増えて、影野小の児童数が100人くらいになり、その後の推計でもある一定数キープできるのであれば、適正規模を満たしているという計画ですので、そういう状況になれば、影野小は存続できるのではないかと考えます。
24	今年の7月に四万十町教育振興計画が策定されましたよね。それには、適正配置のことが載っていないんです。子どもたちの適性に合わせた教育を進めていくとはありますが。 四万十町総合振興計画でも、人口をどんどん増やしましょうというのが、一丁目一番地ですよね。学校統合というのは、その流れに逆行しているように思えます。 今日は、小規模校を否定するなということで、複式学級も悪くないじゃないかという意見が多いと思います。意見はいろいろあると思います。複式学級がやっぱりいけないという方もいると思います。ある一定人数が必要という意見もあろうかと思いますが、丁寧に説明をさせていただいて、小規模校も良いところなんだと、いやいや複式学級がダメなんだというそれぞれの意見を聞いて、総合的に最終的に町長が判断するということになりますけども、ご理解をいただけるように精一杯説明をさせていただいているところです。
25	それが分かるような資料をいただきたい。四万十町の子どもとしてどうなんだということが欲しいです。複式学級が良いとか悪いとかいう議論はあるとは思いますが。 子どもの数がとても減ったということが頭にあってですね、良いところを示せということもあるんでしょうけど、激変していますので、今後の推計を見ていれば回復していくのは難しい状況の中で、適正配置計画を策定し、説明させていただいているのは、無責任に何も論議せず、じっとしていいのかという思いからです。この説明を聞いて、すぐにご理解を賜うことは難しいとは思いますが、そこは持ち帰ってからの話になるかと思います。
26	児童数が少ないから統合というのは如何なものでしょうか。児童数が少なくてもいけないのなら、町として学校へのバックアップをお願いしたい。 今日の説明会のみならず、また今後も話す機会を設けたいと思いますので、よろしくお願いします。
27	統合に賛成反対とかではなく、あくまでも私の子どものことで、統合が良い悪いというのは置いて、子どもは影野小に来て良くなっていることは私の家庭としては間違いないです。それが、なぜなのかは私には分かりませんが。この小学校に来てから、活発な発言ができるようになりました。そういうのは、間違いなく小規模校のメリットだと思います。それがイコール統合が良いとか悪いとかのは繋がらないと思うんですけど、ここでいい生活をさせていただいております。 -